

探鳥会スタッフ通信

2015 年
7 月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

- ◆探鳥会訪問記（入間川定例探鳥会）・・・ 1
- ◆神奈川支部で、お試し会員限定の探鳥会が開催されました・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・・・・ 5
（2015 年 5 月）
- ◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - ・（予告）探鳥会リーダーズフォーラム 2015 を開催します！
- ・ツバメのねぐらの普及をしています
- ・「小冊子プレゼントはがき」で入会促進
- ・新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み
- ◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・・ 11
- ◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・ 12
- ◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・ 12

◆探鳥会訪問記（入間川定例探鳥会）

狭山市・入間川定例探鳥会（埼玉）

日時：2015 年 5 月 24 日（日）
9 時～12 時 30 分
天候：曇りのち晴れ
参加人数：36 名（男性 20 名、女性 16 名）
リーダー：男性 8 名、女性 2 名
コース：狭山市駅前→八幡神社→入間川河原
→稻荷山公園解散

■探鳥会概要

入間川は埼玉県秩父市にある、標高 1,294 m の大持山（おおもちやま）を源流とし、狭山市を流れ、荒川に合流する川です。

市街地を通る開けた環境の中、川沿いを上流へ向かって 1km ほど歩き、最後に雑木林のある大きな公園へと向かうコースになっています。

川があり、最後に林もある、変化に富んでいるコースであることが見どころとなっているということでした。

■探鳥会の様子と観察した鳥

まずは 9 時に狭山市駅に集合します。9 時過ぎになると、駅から 10 分程歩いて八幡神社に

移動し、そこで、本日の見どころや諸注意などの説明があります。そろそろ見られる鳥の種類が減ってしまう時期だそうですが、オオヨシキリとササゴイを目玉とし、あとはコチドリを期待したいとのことでした。

また、現在進んでいる河川工事の影響を観察していきたいということです。



▲河原でササゴイを観察中

40 名越えの大所帯のため、かなり隊列は長くなっていましたが、リーダーも 10 名と多くいらしたので、列の中に適当に入り説明や誘導

をされていました。

リーダーや参加者の方からは次のようなお話を聞きました。

「10年前はサギの天下だったのに、住民の苦情からコロニーのあった林の木を切ってしまったので、今はあまり見なくなりました」

「下流で川が溢れたことがあったため、川沿いの護岸工事や堰を作る工事などが上流へ向かって進んでしまい、カモも少なくなった」。

参加者の中に長年この場所を見ている方がいらっしゃることに、この探鳥会の奥深さを感じられました。

最後は小高い丘の上の稲荷山公園で鳥合わせをして、ほとんどの方がお弁当を食べてからの解散となりました。

心配されたササゴイへの工事の影響は今のところ、思ったよりは少なかったそうです。

観察出来た鳥は、キジ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ササゴイ、ダイサギ、イカルチドリ、コチドリ、オオタカ、カワセミ、コゲラ、オナガ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、シジュウカラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、メジロ、オオヨシキリ、ムクドリ、キビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロの28種類+1（ドバト）でした。



▲囀るオオヨシキリ

■参加者の声

以下は探鳥会参加中に雑談の中でお聞きした参加者の声です。

40代女性：探鳥会への参加は3回目です。ずっと、鳥のあまりいない所に住んでいたのですが、何かの鳥が見られるだけで楽しかったのですが、探鳥会へ行けばもっと色々見られるのかと思い、ネットで調べて参加してみました。

50代男性：探鳥会そのものが初めてです。一人でバードウォッチングをしていたけれど、なかなか鳥を見つける事が出来ないで、近くでやっているのを知って、参加してみました。詳しい方がいるとやはり違いますね。

70代女性：よく参加しています。他の探鳥会も楽しいのですが、ここのコースは平坦な道のりなのがいいです。自分で見つけられなくても、皆さんが望遠鏡で見せて下さるので楽しいです。



▲林の中での観察

■まとめ

リーダーからの諸注意などがとても丁寧でした。ホームページ担当の方から、「写真を撮るので顔出しNGの方は言ってください。」などの細かい配慮がなされていました。

また、リーダー以外の方でも経験豊富な方が多く、長年この場所を歩いていると分からないお話を聞かせて頂きました。

最後に次の探鳥会の案内があり、その後、多くの方が一緒にお弁当を食べてからの解散となっていました。そんな中で会話がうまれ、ベテランと初参加の人も打ち解けて、チームワークがよくなると同時に、次回以降への参加がしやすくなるような雰囲気となっていました。

ベテランが多く育っているのもこうした雰囲気づくりの結果なのではないかと思いました。

(普及室／植木陽子)

◆神奈川支部で、お試し会員限定の探鳥会が開催されました

神奈川支部では、昨年２回「会員を増やすための探鳥会」を開催し、19名がお試し会員（愛称：ひな鳥会員）になりました。また、通常の探鳥会においてもお試し入会を受け付けており、現在合計で約40名のひな鳥会員がいます。

そうしたお試し会員を対象に、本入会へと導くための探鳥会が神奈川支部で開催されました（6/28）。この探鳥会は「せっかくひな鳥会員になっていただいても、本入会へのアピールがないとそれっきりになってしまう」、「ひな鳥会員が参加しやすい探鳥会を開催して参加のきっかけを作り、本入会への後押しをしたい」との思いから企画されました。

当日探鳥会に参加しましたので、ご報告します。

＜申込制・ひな鳥会員、ジュニア会員限定＞

「恩田川と田園散歩 with ランチ!」

日時：2015年6月28日（日）

9時30分～12時

（ランチ参加の方は14時まで）

天候：晴れ

参加人数：11名

リーダー：3名+財団事務局2名

■リーダーから直接のお誘い

支部報で、「初夏の川をのんびり歩き、ランチを一緒にしませんか。鳥や田んぼの事、生き物について話しましょう。野鳥の会の本部職員さんに野鳥の会本部の事を聞いてみましょう。そして本入会を考えてみませんか!」と告知された探鳥会。支部報だけでは申込みがありませんでしたが、リーダーからひな鳥会員とジュニア会員にお誘いのダイレクトメールを送ると、当日は11名の方が参加してくださいました。11名の内訳は、ひな鳥会員の方7名、小学5年生のお子さんがジュニア会員の親子と同級生のお友達、入会して1年目の方1名でした。

■当日の様子

梅雨の晴れ間に開催された探鳥会。野鳥が観察しにくい季節ですが、リーダーの1人に昆虫にも詳しい方がおり、田んぼでアジイトトンボやハイイロゲンゴロウのヤゴなども紹介してください、道々に見どころがたくさんできました。

野鳥は身近な種類を中心に16種類を観察しました。置物のようなアオサギの親子や果敢にツミを攻撃するツバメの親たち、ほわほわしたヒナを連れたカルガモなどが見られ、参加者は



▲葉で休むアマガエルを観察中

「かわいいヒナにとりこになりそう!」
「横浜にも田んぼがあったとは」
「自分1人で歩いていては気づかない野鳥が見られた」
と満足そうでした。

市立体育館の館内で、鳥合わせと入会案内をしました。リーダーからは、

「日本野鳥の会は自然保護団体です。生態系の頂点にいる野鳥を守ることは、その餌となるたくさんの生きものを守ることに繋がっています。ぜひ会員になって、自然を守る活動に力を貸してください。」

と熱意のこもった入会のお誘いがありました。

財団事務局から、会員種別と入会方法を案内し、最後は3名の方が

「本入会をする」

と手をあげてくださいました。また、ジュニア会員の小学生からは、

「今朝入会申込書を投函してきました」

と声がありました。

その後、お店で開かれたランチにも6名が参加してください、今日見た野鳥の話をしたり、

改めて会員種別やお届けするものについて確認したりしました。



▲鳥合わせと入会案内の様子

■参加者の声

30 代くらいの女性：2 月に山下公園で開催された探鳥会でお試し入会しましたが、その後予定が合わず一度も探鳥会に参加していませんでした。今回ダイレクトメールをもらい、ちょうど予定も空いたので、参加しました。

50 代くらいの女性：山下公園で入会してから 6 回くらい探鳥会に参加しました。リーダーの方の頑張っている姿を見て、入会してもいいなと思っていたところですので、今回入会します。

■まとめ

お試し入会后、進んで探鳥会に参加して経験を積んできた参加者がいる一方で、「勇気が出ず参加を躊躇するうちに今日までできてしまった」という声も聞かれました。お試し入会者を対象とした探鳥会は神奈川支部で初の試みでしたが、仲間を増やしていく上で、今回のようにお試し入会者が気軽に参加できる探鳥会が求められていると感じました。

また今回の探鳥会では、入会しようか迷っている方々の生の声を聞くことができ、そのことも大きな成果だったと思いました。

（普及室／堀本理華）

◆探鳥会保険集計結果（2015 年 5 月分）

5 月は 70 支部からご報告をいただき、計 335 回の探鳥会が開催され、のべ 8,042 人が参加されました。

表 1.5 月の探鳥会保険集計結果（2015 年 6 月 15 日現在）

支部	開催回数 (回)	参加者数		スタッフ数 (人)	合計人数 (人)
		会員(人)	非会員(人)		
小清水	-	-	-	-	-
オホーツク支部	6	104	27	6	137
根室支部	-	-	-	-	-
釧路支部	3	28	47	10	85
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	-	-	-	-	-
旭川支部	5	80	4	9	93
滝川支部	1	14	9	1	24
道北支部	1	2	6	1	9
江別支部	-	-	-	-	-
札幌支部	4	143	47	13	203
小樽支部	2	9	22	3	34
苫小牧支部	-	-	-	-	-
室蘭支部	3	40	8	9	57
函館支部	1	5	0	1	6
道南釧路	3	30	49	10	89
青森県支部	-	-	-	-	-
弘前支部	9	92	25	10	127
秋田県支部	3	27	24	4	55
山形県支部	9	53	29	16	98
宮古支部	-	-	-	-	-
もりおか	2	30	100	11	141
北上支部	2	20	1	4	25
宮城県支部	5	72	34	12	118
ふくしま	2	41	15	4	60
郡山支部	1	11	0	3	14
二本松	-	-	-	-	-
白河支部	0	0	0	0	0
会津支部	-	-	-	-	-
奥会津連合	-	-	-	-	-
いわき支部	2	46	5	2	53
福島県相双支部	-	-	-	-	-
南相馬	-	-	-	-	-
茨城県	11	140	56	19	215
栃木	-	-	-	-	-
群馬	3	64	33	13	110
吾妻	1	11	2	2	15
埼玉	9	250	69	60	379
千葉県	7	122	32	29	183
東京	14	541	12	76	629
奥多摩支部	12	159	21	32	212
神奈川支部	11	186	54	41	281
新潟県	-	-	-	-	-
佐渡支部	-	-	-	-	-

富山	4	86	15	5	106
石川	4	25	37	9	71
福井県	9	73	41	19	133
長野支部	6	110	34	12	156
軽井沢支部	3	37	39	3	79
諏訪	1	13	12	2	27
木曽支部	2	14	6	4	24
伊那谷支部	4	27	55	8	90
甲府支部	2	37	20	5	62
富士山麓支部	3	21	13	8	42
東富士	-	-	-	-	-
沼津支部	2	27	4	3	34
南富士支部	3	78	8	4	90
南伊豆	1	7	0	2	9
静岡支部	6	38	10	9	57
遠江	4	101	24	16	141
愛知県支部	14	201	173	37	411
岐阜	-	-	-	-	-
三重	7	46	47	12	105
奈良支部	6	117	79	13	209
和歌山県支部	1	2	5	3	10
滋賀	5	33	23	10	66
京都支部	13	165	93	31	289
大阪支部	23	398	91	108	597
ひょうご	8	128	156	24	308
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	3	27	16	3	46
島根県支部	1	9	4	1	14
岡山県支部	6	116	55	19	190
広島県支部	4	28	36	14	78
山口県支部	4	17	41	5	63
香川県支部	3	95	41	3	139
徳島県支部	5	61	16	5	82
高知支部	1	14	32	1	47
愛媛	7	94	68	10	172
北九州	3	46	28	6	80
福岡支部	6	102	36	14	152
筑豊支部	5	21	4	5	30
筑後支部	5	47	20	7	74
佐賀県支部	3	46	6	3	55
長崎県支部	-	-	-	-	-
熊本県支部	4	41	4	4	49
大分県支部	3	34	15	3	52
宮崎県支部	5	34	17	5	56
鹿児島	3	51	22	11	84
やんばる支部	-	-	-	-	-
石垣島支部	-	-	-	-	-
西表支部	1	2	8	1	11
全国	335	4,989	2,185	868	8,042

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

(普及室)

◆普及室からのお知らせ

■（予告）探鳥会リーダーズフォーラム2015を開催します！■

昨年、東京八王子で開催した「探鳥会リーダーズフォーラム」を今年も同じ会場で開催いたします。（昨年度の報告は、探鳥会スタッフ通信6月号に掲載）

各地で活躍されている探鳥会リーダーのみなさんご参加をお待ちしています！

10月ごろに探鳥会スタッフ通信で告知する予定ですのでもうしばらくお待ちください。

【日 時】2016年1月30日 13時30分
～2016年1月31日 12時00分

【対 象】日本野鳥の会の支部、
連携団体探鳥会リーダー 60名

【会 場】八王子セミナーハウス
（東京都八王子市）

【参加費】10,000円（予定）
（宿泊費、食費、施設費、資料代他）



▲昨年の様子



■ツバメのねぐらの普及をしています■

今年3月に、支部等連携団体（以下、支部）事務局に「ツバメのねぐらマップ」（※1）の活用と支部主催の「ツバメのねぐら入り観察会」の情報提供をお願いしました。たくさんのご協力をいただきました。ありがとうございました。

「ツバメのねぐらマップ」は、お申込みいただいた10支部に向けて先月発送したほか、インターネットなどを通じてお申し込みいただいた一般の方へも随時発送しています。

「ツバメのねぐら入り観察会」については、19支部から22回の開催情報をいただき、当会HP（<http://www.wbsj.org/activity/event/swallow-roost-observation/>）で広報をしているほか、「探鳥会のご案内」やメー

ルによって、全国約25,000人（※2）の非会員に向けて案内しました。

新たに「ツバメのねぐらマップ」を活用いただける場合や、「ツバメのねぐら入り観察会」の開催情報がありましたら tancho@wbsj.org までお知らせください。

（※1）全国18か所のツバメのねぐら情報を載せたパンフレット（B2判／裏表、8つ折り）

（※2）これまでに当会が制作した小冊子にお申込みいただいた方とツバメの子育て状況調査にご協力いただいた方

（普及室／堀本理華）



▲「ツバメのねぐらマップ」表紙



▲「探鳥会案内」表紙

■「小冊子プレゼントはがき」で入会促進■

各支部では、入会促進について様々な努力をされていることと思います。普及室では、「小冊子プレゼントはがき」を配布することで、入会促進に繋げる仕組みを用意しています。

支部の活動エリア内で「小冊子プレゼントはがき」を配布いただくことで、支部のイベントに非会員の参加者が増え、効果的な勧誘ができます。ぜひご検討ください。

◇小冊子によって、入会候補者を集める

「ミニミニ野鳥図鑑」を無料で配布し、バードウォッチングに親しむきっかけ作りを行っています。この小冊子は、当会のホームページや新聞、雑誌等で告知し、連絡先等をいただいた上で、無料でお送りしています。申し込み時に連絡先をいただくことにより、財団にはバードウォッチングに興味のある方のお名前とご住所のリストが年間 10,000 件程度集まってきます。この名簿はいわば将来会員になるかもしれない方の名簿です。

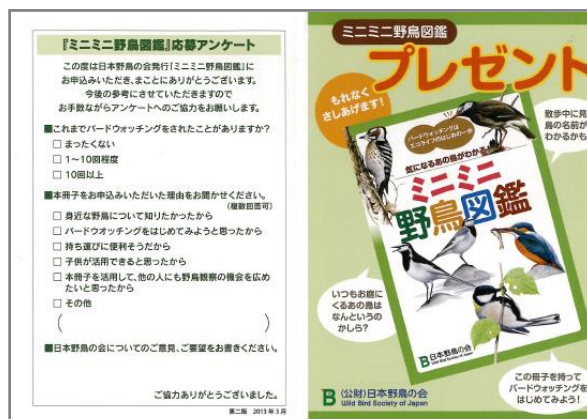
◇入会候補者への情報提供サービス

このようにして集めた名簿の方々に対しては、以下のような情報提供サービスを行っています。継続した働きかけにより、探鳥会への参加や商品購入をしていただく中で、入会に繋がりたいと考えております。

- ①バードショップカタログの送付（4回／年）
- ②支部の探鳥会案内の送付（4回／年）
- ③「会員を増やすための探鳥会」など非会員を対象としたイベントのメールでの案内（不定期）

◇小冊子プレゼントはがきについて

小冊子への申込者が増えれば増えるほど、上記のように入会候補者の名簿が増えます。小冊子プレゼントをPRする方法としては、これまでホームページや新聞に頼っていましたが、しかし、マスコミに頼るだけでなく、2年前からは「小冊子プレゼントはがき」を製作し、試験的に運用してきました。これまでの経験では配布したハガキのうち、約2割の方からの申し込みがあり、期待以上の成果を上げております。





▲小冊子プレゼントはがき（A5 裏表、二つ折り）

◇はがきを配布することの支部へのメリット

「小冊子プレゼントはがき」を支部のエリア内で配布し、小冊子申込者が増えれば、財団には、その地域の入会候補者リストが集まります。支部で非会員を対象としたイベントを企画し、

この方々にご案内することにより、効果的な勧誘活動ができます。

今年3月以降、栃木から、県内のカフェや公共施設、自然系施設など約30か所、計約7,000部の配布拠点を紹介いただきました。現在、少しずつ栃木県内からの申し込みははがきに戻ってきている状況です。

<お申し込み方法>

- ・はがきをおいてくれる、お店、施設、イベント等を紹介してください。
- ①施設・お店・イベント名 ②枚数 ③住所 ④電話番号を明記したリストをいただければ財団より先方にお送りいたします。
- ・はがきの枚数は、100枚単位でお願いします。
- ・nature@wbsj.org までお送りください。

（普及室）

■新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み■

◇新版は売れるか？

この連載で、「新版のよさ、他の図鑑にはない特徴を書いて欲しい」という主旨のご意見を頂戴しました。これまで新版での新たな追記や変更について書いてきましたが、発行の遅れのお詫びを兼ねた、支部や探鳥会のリーダー役の方々向けの裏話だったので、野鳥誌5月号の最終ページで宣伝はさせていただきました。「ハードウォッチャーのバイブル的図鑑がリニューアル」などの売り文句とともに「増補改訂新版はここが変わった！」などが記されています。

が、前回書いたように、一見しただけではあまり変わっていないように見えるほか、薄くなり、地味にもなっている点から、売れ行きは心配です。変更は目立たないように工夫をし、頁は増えたものの野外携帯を考えて用紙を薄くしました。図版の色が地味になったのは、増補改訂版で高野の原画より派手に印刷された図版があったため、原画の色彩に合わせる努力をした結果です。写真図鑑の場合、実際に野外で見える色味とは違う印象のことが多いことが気になっていましたが、今回、改めて高野図版の凄さを再認識できました。

◇目録7版の考え方

野鳥誌9・10月号などで新版を紹介する企画が進んでいるようですが、私自身は6月末に日本野鳥の会埼玉の総会で「『フィールドガイド日本の野鳥』新たな改訂のポイント」という題で講演をさせていただきました。

高野図鑑としての優れた点については、増補改訂版を紹介した野鳥誌2007年10月号にまとめてあるので（当会ホームページのBIRD FAN「野鳥の見分け方」でも見られます）、それをコピーして配布資料としました。新版での改訂ポイントは、これも野鳥誌2007年7月号の分類特集や2013年の日本鳥類目録改訂第7版の変更点などを使って解説しました。また、目録7版の考え方、例えば「現在の鳥類学の到達点を明確にし、不十分な点について今後の検討を促す」については、いかにその考え方に沿わせたかという具体例を紹介しました。ここで持ち時間を終えてしまい、クイズの用紙を配布したものの当日はクイズができませんでしたので次に紹介し、『フィールドガイド日本の野鳥』が他の図鑑と何が違うのか？という話題にさせて下さい。

◇他の図鑑ではあまり触れていないこと

増補改訂版や増補改訂新版で書き加えた事例などをクイズにしました。P以後の数字で新版の当該ページを見れば答えがわかるようになっています。

＜1＞鳥と哺乳類の共通点は

① 恒温動物 ② 子育て ③ ? : P3

＜2＞私たちヒトと鳥の共通点は

① 昼行性で視覚中心 ② ? : P3

＜3＞1934 年の出来事は

① 日本野鳥の会創設 ② ? : P4

＜4＞日本の野鳥は何種? : P12

＜5＞世界の野鳥は何種? : P13

＜6＞生物学の大きなテーマは

① 生物とは何か ② ? : P13

＜7＞種の定義「遺伝的独立」の例外は? : P12

＜8＞生物の分類単位は

＜界＞－＜門＞－＜?＞－＜目＞－＜科＞

－＜属＞－＜種＞－＜?＞ : P12

＜9＞目録の掲載順の意味は? : P12

＜10＞日本固有種とは? : P13

＜11＞留鳥は移動しないか? : P17

＜12＞漂鳥とは国内移動か? : P17

＜13＞小鳥とは? : P214

＜14＞瞬膜とは? : P350

＜15＞色変わりとは? : P23

＜16＞スズメの寿命は? 在巢期間は? 親子期間は? : P23

＜17＞カラス科の特徴とは?

: P298+P300+P347

＜18＞ハシブトガラスとハシボソガラスの歩き方の違いは? : P302

＜19＞哺乳類のように吸い込める鳥は?

: P346

＜20＞スズメやカラスの子どもの聞き分け方は? : P350

◇基本とさまざま、歴史

私は高野さんから、基礎や基本の大切さや、野鳥の楽しみ方は種の識別だけでなくさまざまあることを教えてもらいました。最新の知見から追記や修正したいことは多々ありますが、何に絞って、どのように記するかという観点では、

まずは高野さんの教えを生かすようにしています。次に一般の方々から受ける数々の質問とともに、全国の支部報に掲載される話題も参考にさせていただいており、野鳥をちゃんと識別したい人、鳥について知りたい人にとっては本書が一番と思うとともに、高野さんのみならず多くの方々のお陰様として感謝しています。

他の図鑑にもそれぞれのよさはあるはずですが、本書が決定的に違う点は2つ。ひとつは野鳥の会の財産であることでしょう。高野さん自身が多くの会員に支えられ、教えられたことは野鳥誌や本書にも書いていますし、高野没後、会員の記録を集め、検討して増補版に至り、増補改訂も今回の新版も全国の会員の情報やご協力があればこそなのです。

今ひとつは歴史が詰まっていること。例えばクイズ＜3＞②の答えは、初版でも P3 のピーター・スコット卿の「発刊によせて」に記されているように、「フィールドガイドの形式の誕生」ですが、スコット卿はその歴史的意義も書かれています。33 年後の新版でもそこを省くことはしませんでした。

(普及室／安西英明)



▲新版や山野の鳥/水辺の鳥のイラストを担当されている谷口高司さんの図版の紹介、今回は『新・山野の鳥』改訂版第3刷のために描き直していただいたヒヨドリの幼鳥です。羽縁が白い下尾筒は、幼羽の段階では伸びていない点などを直してもらいました。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信 7 月号の電子メール版の購読者数は、先月から 97 名減って 759 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表2. 探鳥会スタッフ通信 7 月号電子メール版の購読者数（2015 年 7 月 14 日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	2
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	6
道南松山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	3	和歌山県支部	2
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	3	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	24
宮城県支部	39	ひょうご	9
ふくしま	3	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	7
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	5
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	12
群馬	24	筑豊支部	20
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	36	佐賀県支部	4
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	49	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	太分県支部	2
神奈川支部	18	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	4	西表支部	2
		合計	759

補足) 京都支部での ML への転送先が、会員向け ML から幹事、スタッフ ML に変更になったため、今月の購読者数は減少しました。

(普及室)

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアド

レス）を記入し、tancho-staff@wbsj.orgへお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.orgまでお知らせください。

★編集後記

台風が行方が気になる今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

なかなか鳥を見に外へ出るタイミングに困る季節ですが、身近に見ることのできるツバメたちが日々育っている様子を見るのは楽しいですね。一般の方からの問い合わせに「雨が続けているけれど、餌は大丈夫？」などという質問も結構あり、ツバメの注目度が高い事を伺わせます。一般の方にも大人気のツバメたち。そんなツバメたちのねぐら入りを見ることの出来る観察会が各地で開催されることと思います。これを機に是非とも多くの方に楽しんで頂きたいと思います。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会

探鳥会スタッフ通信 第28号

◆発行

（公財）日本野鳥の会 2015年7月16日

◆担当

普及室 普及教育グループ

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL：03-5436-2622

FAX：03-5436-2635

E-mail：tancho-staff@wbsj.org
